

プロジェクター用クロス (BB9239)

プロジェクター用クロスは映像再現性に優れたクロスです。

一般ビニル壁紙に比べ優れたマット性があり、目に優しく自然な映像が観賞出来ます。画像や文字の歪み、モアレが少なく見やすい画像を映し出します。視野角が広く、左右に広がって観賞しても映像の明るさはほぼ変わりません。

性能試験結果

		プロジェクター用クロス	一般ビニル壁紙	参考：スクリーン
映像再現性評価	細線	○	△～×	○
	ベタ	○	△～×	○
光沢度測定試験		1.7	2.5	—
スクリーンゲイン測定試験	ゲイン最大値	0.95	0.86	0.98
	ゲイン最小値	0.85	0.73	0.77
	半値角(視野角)	160度以上	160度以上	160度以上

※「スクリーン」は代表的なプロジェクター用スクリーン(ホワイトマットタイプ)のカタログ値です。

※半値角:正面の最大値の輝度に対し輝度計を2mの距離を保ちながら80°移動し計測しても値は半分に至らない場合、半値角が160°以上という表現になります。

○映像再現性評価試験 (自社評価試験)

細線や単色はエンボス形状により見え方に大きな差が出ます。

プロジェクター用クロスは、凹凸が少ないために映像のガタつきが少なく、またモアレが起こりにくい表面形状です。

《試験方法》試験体表面にプロジェクターで細線(文字)・単色(青のベタ)を投影し、映像再現性を目視で評価。

○光沢度測定試験 (自社評価試験)

光の入る角度(入射角)と逆方向に同じ角度で跳ね返る光を正反射光と言います。入射角からいろいろな方向へ反射する光を拡散光と言います。人は拡散光で物を見えます。(図2) それは正反射光を見ると光源の色が強く見えるため目が眩むからです。(図1)

プロジェクター用クロスは優れたマット性能があり、入射角に対して全方向に光が拡散するため、どこから見てもほぼ同じ明るさで見ることが出来ます。



JIS Z 8741 方法3「60度鏡面光沢」に準拠。試験体表面に光を投影し、表面の光沢度を測定。

《試験方法》試験体表面に光沢計をセットし、入射角60度・反射角60度の光沢度の測定を行う。測定した数値が小さいとマット、大きいほどクロス(光沢)となります。

○スクリーンゲイン測定試験 (自社評価試験)

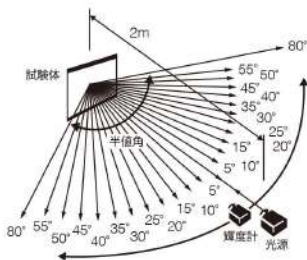
スクリーンゲイン(反射輝度)とは、スクリーンに光を投射し反射してくる光の輝度をいいます。

スクリーンゲイン測定試験は正面からの輝度と、角度を変えゲインが半分になる角度(半値角)の輝度を測ります。

スクリーンゲインの数値は、最大と最小の変化が少ないほど明るさの差が少なく視野角が広いとされています。

プロジェクター用クロスは、最大と最小のゲイン値の差が少ないため視野角が広いと言えます、スクリーンから左右に広がっても、明るいきれいな映像の光が観賞出来ます。

スクリーンゲイン及び視野角の測定試験方法



《試験方法》

スクリーンゲイン測定試験は標準白板(完全拡散板)に直角に光を当てた時の反射してくる光の輝度を基準の1.0とし、同一条件で試験体の輝度を測定し比較したものです。